

令和4年度 社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会事業報告

1. 報告概要

国においては、人口減少や少子高齢化の急速な進展に加え、新型コロナウイルス感染症のまん延が住民の日常生活に大きな影響を及ぼし、支え合い活動の休止や縮小などにより地域のつながりは弱体化し、さらに企業の経営状況の悪化等から労働者の雇用や収入は不安定となり、生活困窮や社会的孤立、制度の狭間等から、個人ではなく、世帯単位で課題解決を要する等、総合的な支援が必要となり、社会を取り巻く環境の変化とともに地域の生活課題はさらに深刻さを増している状況にあります。

このことから、重層的支援体制整備の構築による「地域共生社会の実現」や「持続可能な開発目標（SDGs）」が目指す「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」に向けた取り組みを積極的に推進してきました。

気仙沼市域においても、環境の変化により生活困窮世帯や複合的な課題を抱える世帯などが増加していることに加え、震災後の生活ステージの変化による心のケアや新たなコミュニティ再生などに対して、きめ細かい丁寧な対応が求められており、そうした支援は、既存コミュニティの近隣での支え合いによる繋がりづくり等でも必要性を増している状況となっています。

このような状況を踏まえ、本会は、平成31年度に気仙沼市と連携して策定した「第3期地域福祉活動計画」を着実に実行し、地域福祉を推進する中核的な団体として、誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる住民を主体とした「ともに生きる豊かな地域社会」を目指して、多様かつ複合化している地域生活課題に迅速に対応するために、地区社協等の関係団体や機関等との協働を基盤とし、権利擁護や生活支援等における、質の高いサービスの充実に努め、それらを有機的に連携させることで、地域福祉のさらなる推進を図ってまいりました。

事業の推進に当たっては、事業費の確保や安定した施設経営が重要事項ですが、本会の財政状況は、介護保険事業等の減収による大変厳しい経営状況が続いていることから、プロジェクトチームを設置し、組織改革や再編のほか、事業の効果測定やコスト把握による事業評価を適切に行いながら事業の方向性を見定め、財政の安定化に向け経営基盤の強化に向けて検討を重ねてきました。

今後も引き続き健全な経営について努力する必要があります。

本会としては、今後も継続して検討を重ねながら、地域社会を取り巻く環境を十分に認識し、ガバナンス（経営規律）の強化と法令遵守の徹底、職員人材育成の強化に取り組むとともに、将来を見据え持続可能な組織を確立していくため、経営状況を適切に判断して責任と透明性のある運営に努め、社会的使命を果たしてまいります。

以下、令和4年度の事業について報告します。

【重点目標】

1 住民主体の地域福祉活動の推進

地域福祉活動を推進するに当たり、地域福祉活動の充実のため、地域住民を主体とし、地域のあらゆる関係者が参加・協力し、「ともに生きる豊かな地域社会」の実現に向けて、地域福祉活動の基盤となる地区社協の活動支援の強化とともに、福祉教育を通じた地域福祉活動を担う人材の育成や地域生活課題が身近な地域で解決できる仕組みづくり等に取り組みました。

(1) 地域福祉活動推進のための担い手育成の強化

地域福祉活動を推進していく中で、地区社協をはじめとする関係団体では、地域福祉の要となる担い手不足に直面しており、新たな担い手の育成は、どの地域においても重要課題でありました。本会では、災害時に活動の中心となる災害ボランティア講座や災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施するなど、災害時における担い手育成をはじめとして、地域福祉活動推進のための人材育成について取り組みました。

(2) 地区社協等の活動支援

地域福祉推進に向けた取り組みは、地区社協との連携が必要不可欠であることから、会費の一部を活動補助金として交付し、財政面での支援を行ったほか、地域福祉活動事業の実施に向けた相談、連絡、調整等の支援や住民懇談会開催における支援をしました。震災の影響で活動が停滞している地域もあり、地区社協の基盤整備に対する支援が必要な地域もあることから、今後も活動実践の中核となる地区社協の支援を継続していきます。

(3) 生活支援体制整備事業の充実強化

互助を基本とした地域の主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を推進するとともに、支えあいの体制づくりの充実・強化を図りました。

支え合いの大切さを伝える啓発活動（パネル展示、広報紙の作成）を実施し、地域資源の把握に努め、課題解決に向けたネットワーク構築に必要な地域資源の情報共有や、地区社協を始めとする地域からの交流事業の依頼に適切に対応し、住民懇談会の企画や活動の場づくりなどの支援を通じて、フレイル予防や高齢者の社会参加の促進に取り組みました。

地域生活課題を解決し、地域づくりを進めるコーディネート機能が重要であることから、法人内において、地域支え合い推進員はもとより本会職員の個別支援と地域支援を一体的に提供できる体制の整備が求められます。

2 共生社会の実現に向けた取り組みの拡充

地域住民の多様化・複合化したあらゆる地域生活課題を総合的に受け止め、地域において、誰もが地域社会の一員として尊厳をもった生活が送れるよう、生活支援に向けた相談・支援活動、日常生活自立支援事業等の権利擁護支援、情報提供等を行いました。また、地域課題の解決に向けた地域住民の主体的な取り組みによる地域での生活支援をはじめ、医療や保健、就労、住まい、産業、防災等、福祉以外の幅広い関係者が協働する支援体制を構築していきます。

今後も、潜在化しがちな制度の狭間にある課題を解決できるよう、事業を通じた地域生活課題の

把握に努め、地域住民やあらゆる団体・組織との連携、調整を図りながら共生社会の実現を目指します。

3 介護保険事業・障害者福祉サービス事業の質向上と健全経営

新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、利用者の減少による減収が続いている事業が多い中であって、一部の事業では収益が増加したところもありましたが、法人全体としての収入状況は、依然として厳しい経営となりました。また、職員の離職や高齢化等により、人材の確保に向けた取り組みが重要な課題であることから、SNS やホームページ、地元紙、雇用支援団体との連携を通じ、人材の確保に努めました。

サービスの質の向上やニーズに応じた相違工夫に取り組みながらサービスを改善し、地域住民に支持・信頼されるサービス事業者となれるよう取り組みながら、ワーキンググループを設置し、本会が実施している事業の効果測定やコスト把握による事業評価を適切に行いながら事業の方向性を見定め、必要な取り組みについて検討しました。

4 組織改革と経営基盤の強化

変化の厳しい時代環境の中で、地域社会に責任をもって貢献していくために、組織の理念や目標、体制等を今一度再確認し、持続可能で責任ある自律した組織運営に努めました。また、社会福祉法人に求められているコンプライアンスの徹底を図るとともに、組織体制の抜本的な改善と介護保険事業等の効果的で効率的な自立経営に努め、財政基盤の強化を図りました。

(1) 持続可能で責任ある組織経営

社会福祉協議会としての存在意義を念頭に、地域に開かれた組織としての透明性の確保を図り、あらゆる関係者との参加と協働に努めました。理事会や評議員会、監査会等により責任ある組織的な判断に基づく経営を行うとともに、環境の変化に対応し、計画的に事業を展開し、更に、すべての役職員が高い倫理意識を保持し、日常のあらゆる活動において法令遵守を徹底しながら、地域の信頼を得られるよう組織運営に取り組みしました。

(2) 組織の見直しと経営基盤の強化

本会の財政基盤の根幹は、介護保険事業や障害福祉サービス事業の収入によるものですが、赤字運営となる事業所もあり、厳しい状況が続いてきました。更には新型コロナウイルスによる事業所の休止や利用者及び職員の減少などの影響から、今年度も安定したサービスの提供と収入を確保することが難しい年となりました。また、社協財源の柱となる寄付金、会費、共同募金配分金についても減少していることから、組織としての経営基盤を根本から見直す必要があります。このことから、組織再編による組織基盤の見直しを図るとともに、適切な事業評価を踏まえ、収益構造を確立する中で財政基盤の強化を図っていきます。

1. 法人運営事業

事業名	内 容
理事会の開催	【概要】法人の執行機関として、理事会を開催し、法人の適正な運営に努めました。 ① 令和4年6月9日（木）午後1時30分 出席者 理事12人 監事3人 - 企画経営委員会補欠委員及び地域福祉推進委員会補欠委員の選任同意について【同意】 - 令和3年度介護報酬改定に伴う運営規程等の整備に伴う関係規程の整理に関する規程制定について【同意】 - 令和3年度事業報告及び決算について【同意】 - 社会福祉充実残額の報告について【同意】 - 令和4年度補正予算（案）について【同意】 - 定時評議員会の招集について【同意】 - 定時評議員会に提案する「補欠理事候補者」の選任同意について【同意】 - 評議員選任・解任委員会補欠委員候補者の選任同意について【同意】 - 定時評議員会の招集について【同意】 ② 令和5年3月15日（水）午後1時30分 出席者 理事14人 監事1人 - 企画経営委員会及び地域福祉推進委員会委員の選任同意について【同意】 - 育児休業及び介護休業等に関する規程の全部を改正する規程制定について【同意】 - 高年齢者雇用安定法の改正による高年齢者就業確保措置に伴う嘱託職員等就業規則等整理に関する規程制定について【同意】 - 食材料費の高騰に伴う運営規程の整備に関する規程制定について【同意】 - 指定障害児通所支援事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 - 気仙沼市ホームヘルプサービス事業所運営規程を廃止する規程制定について【同意】 - 気仙沼市ホームヘルプサービス事業所介護予防・生活支援サービス「訪問型A」運営規程を廃止する規程制定について【同意】 - 令和4年資金収支補正予算（案）について【同意】 - 令和5年度事業計画（案）について【同意】 - 令和5年度資金収支予算（案）について【同意】 - 役員等賠償責任保険契約について【同意】 - 評議員会の招集について【同意】 【成果】業務執行の決定、理事の職務執行の監督などの職務を担い、社会福祉法人の執行機関として適正な運営に取り組むことができました。 【決算】 78,000 円

評議員会の開催	【概要】法人の議決機関として、次の通り会議を開催し、法人の適正な運営に努めました。 ① 令和4年6月24日（木）午後1時30分 出席者 評議員24人 理事4人 監事2人 1 補欠理事の選任について【承認】 2 令和3年度事業報告及び決算について【承認】 3 社会福祉充実残額の報告について【承認】 4 令和4年度資金収支補正予算（案）について【承認】 ② 令和5年3月29日（水）午後1時30分 出席者 評議員21人 理事4人 監事3人 1 令和4年度資金収支補正予算（案）について【承認】 2 令和5年度事業計画（案）について【承認】 3 令和5年度資金収支予算（案）について【承認】 【成果】法人運営に係る重要事項の議決機関として、様々なご意見をいただきながら、法人の健全経営や地域福祉事業に関する事項について承認をいただくことができました。 【決算】168,000 円
監査会の開催	【概要】理事の業務執行状況及び法人の財産の状況の検査のため、次の通り監査会を実施しました。 ① 令和4年5月19日（木）、5月20日（金） 1 令和3年度理事の業務執行状況及び事業並びに決算監査について ② 令和4年11月10日（木）、11月11日（金） 1 令和4年度上半期理事の業務執行状況、事業報告及び計算書類並びに付属明細書について 【成果】理事の業務執行の状況及び法人の財産等の状況について、厳しい財政との意見をいただき、その状況を職員間で共有し、経費の節減や稼働率の改善に鋭意努めております。 【決算】156,000 円
評議員選任・解任委員会	開催実績なし

【1】会員数〈会費〉

一般会費〈令和4年度決算〉	16,739世帯	5,021,700円
〈令和3年度決算〉	16,592世帯	4,977,600円
賛助会費〈令和4年度決算〉	2,088世帯	2,124,000円
〈令和3年度決算〉	2,103世帯	2,148,000円
特別賛助会費〈令和4年度決算〉	75法人・9個人	795,000円
〈令和3年度決算〉	38法人・10個人	430,000円
団体会費〈令和4年度決算〉	13団体	39,000円
〈令和3年度決算〉	13団体	39,000円

【2】役員・評議員

理事 16人 令和5年3月31日現在

監事 3人 令和5年3月31日現在

任期：令和3年6月24日から令和4年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：13人以上16人以内

評議員 30人 令和5年3月31日現在

任期：令和3年6月24日から令和6年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：28人以上33人以内

【3】評議員選任・解任委員会

委員 5人 令和5年3月31日現在

任期：令和6年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：5人

令和4年度 会費納入及び助成金交付状況

令和5年3月31日現在 (単位：円)

地区社協	納 入			交 付				小ネット ・モデル 地区社協	給食 サービス	合 計
	一般会費	賛助会費	特別賛助 会費	活 動 費 助 成			合 計			
				一般会費	賛助会費	特別賛助 会費				
西	600,000	155,000	100,000	200,000	46,500	20,000	266,500			266,500
	2,000	155	10							
	362,700	407,000	75,000	120,900	122,100	15,000	258,000	15,900	126,600	400,500
上	1,209	394	9							
	105,000	2,000	40,000	35,000	600	8,000	43,600		33,300	76,900
	350	2	5							
中央	85,500	72,000		28,500	21,600		50,100			50,100
	285	68								
				0			0			0
南町・柏崎										
南	89,700	34,000	35,000	29,900	10,200	7,000	47,100			47,100
	299	34	4							
	305,700	290,000	340,000	101,900	87,000	68,000	256,900			256,900
鹿折	1,019	286	32							
	679,500	425,000	60,000	226,500	127,500	12,000	366,000		63,000	429,000
	2,265	425	6							
松岩	405,000	409,000	85,000	135,000	122,700	17,000	274,700	26,000	21,600	322,300
	1,350	396	9							
	352,800			117,600		0	117,600		54,600	172,200
階上	1,176									
	255,600	104,000	20,000	85,200	31,200	4,000	120,400			120,400
	852	102	2							
大島	360,000	213,000	30,000	120,000	63,900	6,000	189,900		22,800	212,700
	1,200	213	3							
	539,700	13,000	10,000	179,900	3,900	2,000	185,800	20,000		205,800
唐桑	1,799	13	1							
	122,700			40,900			40,900			40,900
	409									
小泉	431,100			143,700			143,700			143,700
	1,437									
	326,700			108,900			108,900		43,500	152,400
大谷	1,089									
	5,021,700	2,124,000	795,000	1,673,900	637,200	159,000	2,470,100	61,900	365,400	2,897,400
	16,739	2,088	75法人9個人							

※下段は加入者数
※団体会員13団体 39,000円

2. 地域福祉事業

事業名	内 容
地区社協会長会議の開催	【概要】住民参加による地域福祉活動の推進を図るため、会長会議を開催し、情報交換等を行いました。 【実績】 ① 令和4年6月29日（水） 1 地区社協との協働・連携事業について 2 住民懇談会の開催について 3 生活支援体制整備事業に係る地域支え合い協力員の推薦依頼について 4 モデル地区社協指定事業について 5 今後の会議・研修等のスケジュール（案） 等
	② 令和4年7月20日（水） 1 令和3年度社協会費の取り組みについて 2 赤い羽根街頭募金の協力方について 3 情報交換「敬老会等地区社協事業について」
	③令和4年12月22日（木） 1 令和4年度歳末たすけあい募金配分事業について 2 地区社協活動助成配分について 3 市社協の運営財源について
	④令和5年3月10日（金） 1 令和5年度に向けた取り組みについて （1）市社協賛助会費協力世帯・特別賛助会費協力事業所（者）への会員証発行について （2）地区住民懇談会の開催について （3）地域支え合い推進モデル地区社協指定事業について 等
	【成果】地区社協会長会議がより有益な場となるよう地区社協運営の課題等について情報交換の時間を設けました。コロナ禍での活動に悩む地区が多い中、他地区の活動状況を知る貴重な機会となりました。また、社協会費等について意見交換を行ったことで市社協と地区社協の相互理解の促進に繋がりました。 【課題】各地区社協の取組紹介や運営面の工夫などに課題を抱えている地区社協もあることから、相互の活動がより共有でき生かせるよう、情報交換の充実に努めます。 【今後の取組】今後も幅広い意見の聴取と地区社協間の情報交換・共有などの充実に努めるとともに、市社協と協働事業の働きかけや情報提供、相談対応を継続します。 【決算】277,918 円

地域福祉活動計画の推進と進行管理	【概要】 地域福祉活動計画の具体的な取り組みの実施状況を把握しながら、効果的に計画を遂行しました。 【実績】 地域福祉活動計画推進連絡会議 2回（7月、2月） 【成果】 地域福祉活動計画推進連絡会議では、昨年度の評価及び今後の取り組みについて具体的な意見交換ができました。 【課題】 コロナ禍もあり、思うように事業の実施や市地域福祉計画との合同推進委員会開催が出来ませんでした。 【今後の取組】 新型コロナウイルス感染の収束には至っていませんが、行動制限も緩和されつつあることから、計画に基づき事業を実施します。また、次期計画の策定に向け情報収集を行うとともに、市担当課との連携がスムーズに取れるよう、定期的な情報共有の場を設けるなどして取り組みます。 【決算】 255,489 円
小地域福祉活動の推進	【概要】 誰もが地域の中で安心して生活できるよう住民同士が協力し、見守り、助け合い、支え合う 小地域福祉活動を推進しました。 【実績】 小地域福祉活動補助金交付 3地区社協 【成果】 コロナ禍により地域活動を自粛する中においても、感染対策を講じて集い等を実施している地区もありました。また、地域支え合い推進員と同行訪問し、感染予防の周知や活動の意味づけなどを行いながら無理なく継続できるよう支援を行いました。 【課題】 地域支え合い活動推進モデル地区社協指定事業については、コロナ禍により地域活動の自粛から、指定には至りませんでした。 【今後の取組】 地域支え合い活動推進モデル地区社協指定事業については、引き続き地区社協等の情報把握に努めながら進めます。また、小地域活動を進める上での住民向けパンフレットを作成するとともに、誰もが参加しやすい研修会や地域福祉推進フォーラム等の開催に向け、小地域福祉活動の理解と参加を促進します。 【決算】 329,082 円
生活相談所の運営	【概要】 気仙沼地域では社協本所相談室で週4日（月、火、水、金）午前9時から午後3時まで、本吉地域では本吉支所で毎週月曜日の午前9時30分から午前11時30分まで生活相談所を開設し、生活上の心配事や悩みごとの相談事業を実施しました。 【実績】 ①生活相談所 気仙沼地域：相談員4人 開設日数 175日 相談件数 12件 本吉地域：相談員6人 開設日数 47日 相談件数 6件 ②移動生活相談 大谷公民館 6月27日 相談件数 1件 小泉公民館 7月 4日 相談件数 1件 ②広報啓発 社協だよりに相談窓口について掲載し、周知を行いました。

	③県社協主催研修会への参加 相談員 7名 ④無料法律相談の開催 開催日 11月17日(木) 相談件数 仙台弁護士会から2名の弁護士の派遣を依頼し実施。 【成果】定例で開催している相談日の他、移動相談や無料法律相談(専門)を開催し、気軽に相談できる場を提供することができました。 【課題】相談員としての資質向上と相談所機能の活性化が必要です 【今後の取り組み】専門相談会を開催する等、相談所事業の周知や気軽に相談できる機会を設け相談所機能の活性化を図ります。また、積極的に研修会に参加する等相談員の資質向上に努めます。 【決算】1,537,187円
広報・啓発	【概要】広報紙「気仙沼市社協だより」を6回発行(5、6、8、10、12、2月)し、全戸及び関係機関に配付しました。また、ホームページの他、公式LINEを活用し、よりリアルタイムでの情報発信に努めました。 【成果】地域の活動紹介や本会活動、各種情報について発信することができました。LINE登録者については123名(令和5年3月末時点) 【課題】新型コロナウイルス感染症の影響から、地域の活動が自粛となり、地域団体活動の情報発信をしにくい現状にあります。 【今後の取組】引き続き広報誌やホームページ、LINEを活用し、幅広い情報提供と啓発に努めます。 【決算】2,638,011円
本吉地域福祉まつり	【概要】昨年度同様に一年を通して生活の基盤となるミニ社協(地域振興会)単位で住民が主体的に集い、楽しみながら交流し学べる場づくりへの取り組みの支援により、住民相互のふれあいと支え合いによる福祉コミュニティづくりを推進することを目的として取り組みました。 【実績】推進会議開催 令和4年 7月12日(火) 福祉まつり 令和4年11月 6日(日)【北区地域】 【成果】推進会議にて推進方策を話し合い、事業周知を図ったところ1地区実施することができました。 【課題】事業に関する問合せもあったが、周知が遅かったことやコロナの影響等もあり、実施予定が中止となる地域もあった。 【今後の取組】推進会議にて、今年度の実績や課題点を確認しながら、次年度の開催方法などを検討し、地域の方々と一緒に地域福祉推進に努めていきます。 【決算】28,416円

善意銀行の運営	【概要】市民から多様な善意の預託を受け、その善意を地域生活支援及び住民参加による地域福祉の増進に資するよう効果的な活用に取り組みました。 【実績】 <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">預託</td> <td>金銭 15件 790,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>物品 7件 (タオル、バスタオル、衣類、塩蔵ワカメ、米、雑巾、ひな人形一式)</td> </tr> <tr> <td style="padding-top: 10px;">払出</td> <td>金銭 15件 790,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>物品 7件 (同上)</td> </tr> </table> 【成果】寄付者の意向に沿い、地域の団体等への効果的な払い出しができました。 【課題】善意銀行への寄付者の減少が見られます。 【今後の取組】速やかな事務処理に努めるとともに、必要に応じ広報による周知を図ります。 【決算】790,840円	預託	金銭 15件 790,000円		物品 7件 (タオル、バスタオル、衣類、塩蔵ワカメ、米、雑巾、ひな人形一式)	払出	金銭 15件 790,000円		物品 7件 (同上)
預託	金銭 15件 790,000円								
	物品 7件 (タオル、バスタオル、衣類、塩蔵ワカメ、米、雑巾、ひな人形一式)								
払出	金銭 15件 790,000円								
	物品 7件 (同上)								
地区社協活動費助成事業	【概要】地区社協が実施する地域・在宅福祉に関わる事業活動に関する補助金を交付し、小地域福祉活動を推進しました。 <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">当該地区普通会費納入額の</td> <td>1 / 3 相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">〃 賛助会費納入額の</td> <td>3 / 10 相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">〃 特別賛助会費納入額の</td> <td>2 / 10 相当額</td> </tr> </table> 【成果】補助金の交付により、地区事業への支援ができました。 【課題】小地域福祉活動の推進や生活支援体制整備事業など、地区社協活動の促進及び協力を進めるための財源の確保が課題です。 【今後の取組】地区社協と市社協が一体となり、様々な場面を通して事業活動の理解促進に努め、震災により減少した会員の復活や新規会員を増やすことに努めます。 【決算】2,470,100円	当該地区普通会費納入額の	1 / 3 相当額	〃 賛助会費納入額の	3 / 10 相当額	〃 特別賛助会費納入額の	2 / 10 相当額		
当該地区普通会費納入額の	1 / 3 相当額								
〃 賛助会費納入額の	3 / 10 相当額								
〃 特別賛助会費納入額の	2 / 10 相当額								
屋内ゲートボール場の運営	【概要】市民の福祉の向上、健康増進及びスポーツ振興を図ることを念頭に運営しました。また、施設を有効活用するため、気仙沼市ゲートボール協会に管理運営を委託しました。 【実績】開場日216日 利用者延べ1,025人 【成果】新型コロナウイルス感染症リスク回避による利用控え、利用者の高齢化による競技離れが要因となり、利用実績は減少していますが、シニア層の生きがいづくり、健康の維持増進等の一助となっています。 【課題】当面は新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みを進めながら、健康増進の場としての役割をどのように果たしていくかの検討を進める必要があります。 【今後の取組】新型コロナウイルス感染症に関して、市の状況を確認しながら、新しい生活様式の範疇において健康増進の一助になるよう慎重な運営に努めてまいります。 【決算】1,120,016円								

社会福祉大会の開催	【概要】 地域社会の生活課題に向けて、地域住民、社会福祉関係機関・団体が協力し、地域福祉の推進に取り組むことの重要性を再確認するとともに、永年に亘り社会福祉の発展にご尽力をいただいた方々を表彰し、感謝の意を表しました。 【日時】 令和5年1月31日 午後1時30分 【場所】 気仙沼中央公民館 ホール 【式典】 ①表彰状 社会福祉施設功労者 20名 社会福祉協議会功労者 62名 福祉団体功労者 3名 永年勤続功労者 38名 ボランティアグループ・ボランティア個人功労者 1団体 ②感謝状 個人 49名 団体・企業 2団体 【成果】 新型コロナ感染症の感染状況を考慮し、開催時期、内容について協議を重ね、無事盛会裡に開催することができ、長年地域福祉に寄与された個人・団体へ表彰することができた。 【課題】 事業実施における計画や進行管理がスムーズにできなかった。 【今後の取り組み】 今後も5年ごとに開催してまいります。また、社会福祉大会が開催されない年次における表彰については、適宜行ってまいります。 【決算】 683,587 円
気仙沼市市民福祉センター 管理運営業務	【概要】 気仙沼市市民福祉センター条例及び基本協定書に基づき、社会福祉を目的とする市民の相互交流及び高齢者並びに障害者の自立の促進と健康の増進を図り、地域福祉の向上に努めました。 【実績】 利用回数 1, 148回 利用者数 11, 356人 【成果】 新型コロナウイルスの影響により、利用が落ち込む時期もありましたが、令和3年度よりも利用回数及び利用者数は微増となり、福祉団体をはじめとする市内各団体に活用いただき、地域福祉の拠点施設として成果を上げることができました。 【課題】 建設から5年が経過し、軽微な修繕を要する箇所がみられるようになりました。 【今後の取組】 施設の設置目的を基本としながら、地域福祉の拠点となるよう管理運営に努めます。また、津波想定区域の見直しにより、避難行動計画の作成を行います。 【決算】 16,349,019 円

気仙沼市唐桑保健福祉センター及び気仙沼市福祉の里 野外施設管理運営業務	【概要】 気仙沼市保健福祉センター条例及び気仙沼市福祉の里野外施設条例並びに指定管理に係る基本協定書に基づき、市民の健康保持・増進及び地域福祉の推進を図るため、適切な施設の維持管理に努めました。 【実績】 利用回数 382回 利用者数 11,435人 【成果】 地域福祉団体等の定期的な利用の他にも、夜間や休日の利用も増加し、地域福祉活動の拠点として、効果的に利用していただくことができました。 【課題】 施設設備等に劣化等がみられ、計画的な修繕の必要があります。 【今後の取組】 今後も利用者が、安心・安全に施設を利用できるように適切な維持管理及び環境整備に努め、サービス向上を図ります。 【決算】 13,630,715 円
--	--

3. ボランティアセンターの運営

事業名	内 容
ボランティア相談・調整等 事業	【概要】 ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティアの相談・ニーズの受付・調整・派遣等、ボランティアの育成・啓発を推進するとともに、相互理解と互助によるボランティア活動の機運の醸成に努めました。 【実績】 ボランティア相談 4件 調整 4件 【成果】 ボランティア活動希望者の相談に応じ、ボランティアの育成・啓発の推進に努めました。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティアの依頼者及び活動者双方で自粛が見られます。 【今後の取組】 感染対策に配慮しつつ引き続きボランティアの育成・啓発に努めます。 【決算】 1,118,011 円
災害ボランティア講座	【概要】 災害発生時を想定したシミュレーションを交え、いざという時に助け合い支え合う心を培い、防災の知識を深めることを目的に開催した。防災と災害ボランティアについて講話を聴講し、防災すごろく「助け合ってご〜（GO）！」の体験を行いました。 【実績】 日 時：令和4年10月29日（土） 午前の部 10：00～12：00 午後の部 13：30～15：30 場 所：市民福祉センター「やすらぎ」 参加人数：午前の部 27名 午後の部 23名 合計 50名 【成果】 災害時のみならず、日頃からの支え合い・助け合いの大切さについて考え、コロナ禍の中での災害支援について学んでいただく貴重な機会となりました。

	【課題】継続した講座の開催による人材育成が必要です。 【今後の取組】今後とも地域に寄り添いながら災害に備え、災害ボランティアセンターの設置・運営や生活復興のための支援について学ぶことのできる講座を開催してまいります。 【決算】72,780 円
災害ボランティアセンター 設置運営訓練	【概要】局地的な大雨や大地震等による災害に備え、災害ボランティアセンターの設置・運営や生活復興のための支援について、被災者に寄り添いながら迅速かつ適切に対応できるよう備えることを目的に災害ボランティアセンター設置運営訓練を開催しました。 【実績】日 時：令和5年3月18日（土）13：30～15：30 場 所：市民福祉センター「やすらぎ」 参加人数：41名 【成果】災害ボランティアセンターの機能と役割について資料や動画を交えながら講義を受けた後、スタッフ役とボランティア役に分かれて受付からボランティア活動へ出発するまでの一連の流れを体験し、参加者の方々の災害ボランティアセンターへの理解を深めることができました。 【課題】実際に災害が発生したときにスタッフやボランティアとして協力いただけるよう、参加者へのフォローアップなどを定期的に開催する必要があります。 【今後の取組】今後とも地域に寄り添いながら災害に備え、災害ボランティアセンターの設置・運営や生活復興のための支援について学ぶことのできる講座を開催してまいります。 【決算】37,500 円
ボランティア保険の加入	【概要】ボランティアの方々が安心して活動できるよう、ボランティア保険の加入手続きを行いました。 【実績】加入者 1,024人（前年度1,116人） うち、ボラ保険掛金一部助成を受けた方 695人 (前年度 583人) 事故報告件数 1件 【成果】安心してボランティア活動ができる環境の整備に努めました。 【課題】事故発生時に備え、保険の活用と速やかな事故報告について引き続き周知する必要があります。 【今後の取組】引き続きボランティア保険の加入促進及び事故発生時の保険の活用についての周知に努めます。 【決算】208,500 円

4. 福祉教育

事業名	内容
行事参加協力調整事業 (高校生ボランティアの活動調整)	【概要】市内の福祉施設等から高校生ボランティアの派遣を依頼された際に、市内の高等学校の協力を得てボランティアを募りました。 【実績】新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により予定していた活動が中止になるなどの影響もありましたが、24時間テレビチャリティ募金に3校から協力をいただきました。 【課題】新型コロナウイルス感染症の感染状況により、今後も依頼数の減が見込まれます。 【今後の取組】感染対策に配慮しつつ他事業と連携し、ボランティアについての理解を深めるよう広報啓発等に努め、活動者の増を図ります。
24時間テレビ街頭募金協力	【概要】24時間チャリティ募金活動を通して、幅広い年代層からの募金への理解を図りました。 【実績】 実施期間 8月29日(日) 募金場所 気仙沼市社会福祉協議会 本所 協力者 高校生ボランティア(市内 3高校) 【成果】今年度は募金の実施に合わせ、本会にてコインアートとマルシェの実施を企画し、募金活動への理解を図りました。 本事業はボランティアスクールの一環として実施し、高校生にはボランティア入門についての講話を聴講の後、募金受付とコインアートに協力をいただきました。 【課題】雨天により来場者は少ない結果となりました。天候に左右されない活動について検討する必要があります。 【今後の取組】より効果的な活動方法について検討しつつ、幅広い年代層からの募金への理解を図ります。 【決算】17,300円
福祉教育・企業・団体への職員派遣事業	【概要】学校からの福祉教育体験の依頼に基づき、社協職員等を派遣しました。実施方法については、先方の要望に応じて内容を相談の上で行いました。 【実績】 小学校 3校 延べ4回 中学校 2校 延べ3回 【成果】地区社協と連携し、地域に根差した福祉教育を行うことができました。 【課題】新型コロナウイルス感染拡大の影響により、体験学習を行う学校が減少しています。 【今後の取組】福祉教育プログラムの作成や周知を図り、利用団体の増を図ります。

敬老作文募集事業	【概要】 敬老をテーマにした作文に取り組むことで、児童が高齢者への理解を深め、敬老の心を培う事を目的に、市内の小学校を対象として依頼し作文を募集し、元教員、児童福祉関係者等 9 人の審査により、最優秀 6 点、優秀 18 点を選びました。受賞作品は、社協だよりのほか、学校や企業の協力を得て、地元新聞へ掲載しました。また、K・N・E・Tにおいて最優秀児童の作文朗読出演のほか、受賞作品の作文集を作成し関係者に配付しました。 【実績】 応募学校数：市内 14 校 応募総数（学校への提出作品）：145 点 各学校からの選考作品数（審査対象作品）：61 点 受賞作品総数：24 点 【成果】 作文に取り組むことで高齢者に対する理解の促進と思いやりやいたわりの心を培うことの一助となりました。 【課題】 審査会において、誤字や文字数についての指摘がありました。このことについては、報告事項として学校へ伝達することとしました。 【今後の取組】 児童の高齢者福祉に対する理解促進のため、当面は事業を継続します。 【決算】 269,295 円
福祉教育活動費補助金交付事業	【概要】 継続した福祉教育・ボランティア学習の支援を行うため、市内小・中・高等学校に補助金を交付しました。 【実績】 補助金申請校数 小学校 3校 58,008 円 中学校 1校 20,000 円 高校 1校 19,723 円 【成果】 市内の学校に福祉教育活動費補助金を交付し、継続した福祉教育の支援を行うことができました。 【課題】 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、体験学習を行う学校が減少しており、申請数に伸び悩みが見られます。 【今後の取組】 福祉教育プログラムの作成や周知を図り、利用校の増を目指します。 【決算】 100,701 円

5. 資金貸付等事業

事業名	内 容
生活福祉資金貸付事業	【概要】 資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲の助長促進及び在宅福祉並びに社会参加の促進を図り、安定した生活を送ることができるよう資金の貸付や相談支援を行いました。 また、新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付の相談及び申込窓口として対応しました。

	【実績】 (1) 生活福祉資金 教育支援資金 2件 10,360,000円 福祉資金 7件 670,000円 総合支援資金 1件 600,000円 (2) 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付 (令和4年9月末受付期間終了) ①緊急小口資金特例貸付 36件 6,800,000円 ②総合支援資金特例貸付 36件 19,650,000円 (3) 東日本大震災による緊急小口資金特例貸付 受付終了 【総貸付件数】(令和5年3月末日現在) (1) 生活福祉資金 108件 65,151,242円 (2) 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付 ①緊急小口資金特例 197件 34,975,940円 ②総合支援資金特例貸付 244件 133,817,510円 (3) 東日本大震災による緊急小口資金特例貸付 186件 16,852,870円 【成果】 通常の貸付制度の他、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活に困窮されている方々の特例貸付申込窓口として対応しました。また、生活困窮者自立相談支援事業所と連携しながら、借受世帯の継続的な相談支援に努めました。 【課題】 貸付と生活困窮者自立相談支援事業所の継続的な相談支援両輪の下貸付しているにも関わらず、継続的な相談支援を拒否される方もいることから、なお一層各関係機関と連携し世帯の自立支援に取り組む必要があります。 【今後の取り組み】 宮城県社会福祉協議会や担当民生委員、自立相談支援機関と連携しながら世帯の自立支援に努めます。 【決算】 6,631,248円
生活安定資金貸付事業	【概要】 低所得世帯に対し、緊急かつ一時的に必要な生活資金の貸付を行うことにより、その世帯の自立更生を援助し、生活の安定に資することを目的として小口の貸付を行いました。 【実績】 8件 327,000円 【総貸付件数】(令和5年3月末現在) 14件 437,000円 【成果】 緊急に資金を必要とする世帯に対し迅速に対応することで生活の安定を図ることができました。 【課題】 長期滞納者への対応が課題です。 【今後の取り組み】 今後も定期的に通知を送信するなど償還への働き掛けと、担当民生委員と連携しながら生活実態の把握に努めます。 【決算】 329,682円

6. 援護活動

事業名	内 容
交通・海難等遺児に対する 就学支援費の支給事業	【概要】交通事故、海難事故、労働災害及び病死（不慮の事故を含む。）により、扶養していた父母の一方又は双方が死亡した満18歳以下の高校在学までの者に対して、民生委員・児童委員を通じ就学支援費を支給しました。 【実績】遺児家庭 27世帯 遺児数 37人 贈呈金額 272,000円 高校生 10,000円×12人 中学生 8,000円×9人 小学生 5,000円×16人 【成果】遺児とその家族との対面での支援を通じ、相談しやすい環境づくりができました。また、民生委員・児童委員が欠員の地区については、他地区の民生委員・児童委員より協力を得て対応しました。 【課題】事業の在り方について検討が必要です。 【今後の取組】当面は従来通り民生委員・児童委員による対面での支援を行い、相談しやすい環境づくりに努めます。また、事業の在り方について検討します。 【決算】276,880円

7. 生活支援・障害福祉事業

事業名	内 容
日常生活自立支援事業 （福祉サービス利用援助事業） 気仙沼・南三陸地域福祉サポートセンター（まもりーぶ気仙沼・南三陸）	【概要】認知症、知的障害、精神障害等の何らかの理由で判断能力が不十分な方々が、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、定期的な訪問による見守りと福祉サービスの利用援助、日常的な金銭、書類管理等のサポートを行いました。個人の権利を擁護するとともに、意思決定を尊重しながら、日常的な生活の自立支援対策として事業を実施しました。 【実績】利用者 52名 （うち認知症高齢者17名、知的障害者14名、精神障害者14名、その他7名） 【成果】高齢者や障害を持った方々に関わる支援機関や親族等からの問い合わせや具体的なサービス利用に向けての相談は、例年と同程度の件数が寄せられており、判断能力が不十分になった方々が本事業のサービスを利用することにより、住み慣れた地域の中での生活を支える大きな役割を持った事業の一つとしての認識は深まっています。コロナ禍における感染予防の対策が講じられ、施設等での面会や利用者宅への積極的な訪問に制限がある中においても、支援計画に基づいた定期的な訪問

	を行うことで地域での生活を支援することができました。また、自身での保管が難しい書類等についても、市内金融機関の貸金庫に預けることで財産を保全することができました。 【課題】ここ数年契約件数の大幅な増減はありませんが、専門的な関係機関との調整が必要とされ、本事業の範疇では対応困難なケースが増加しています。現在利用契約を締結しているケースの中には、成年後見制度の利用が適当とされる事例も多く、同制度へのスムーズな移行が求められています。 また、親族の高齢化や判断能力が不十分となり、サポートを得ることが難しくなった方も増え、親族に関わる支援機関との連携や調整が新たな課題となっています。本事業は、他のサービスや事業では対応しづらい金銭管理に関しても支援範囲としているため、地域の福祉・保健・医療からの役割の期待は大きなものとなっていますが、金銭管理だけ目的とするサービスと見られるなど、事業の役割や対象者、支援範囲について十分理解されておらず、本来の役割以外のことを求められる等の課題も生じています。 【今後の取組】生活支援員を担える福祉的人材育成のほか、職員の資質向上を目的とした研修会の開催、成年後見制度を見据えた体制作り等、関係機関との連携を密に、事業の推進と周知、啓発及び総合的な権利擁護への取り組みを行います。 【決算】 9,058,386 円
フードバンク事業	【概要】みやぎ生協との協定により飲食物の提供を受け、緊急時の生活支援の一助として、主に本会における資金貸付相談者で生活困窮世帯への食料支援を行いました。 【実績】 8 件 【成果】一時的に必要な食料支援を行うことで、当面の食の確保をすることができました。また、自立相談支援機関へ繋ぎ継続的な利用を進めました。 【課題】在庫の状況により、提供可能な食品と数に変動があります。
ガイドヘルパー派遣事業	【概要】視覚障害者の社会参加を支援し、視覚障害者の社会生活範囲の拡大と福祉の増進を図ることを目的に、視覚障害者介添人の派遣を行いました。 【実績】活動延人数 20人 (前年度29人) 依頼件数 21件：実人数3人1団体 (前年度27件) 【成果】個人利用では通院などを中心に利用がありました。 【課題】視覚障害者への手引きサポートという活動内容から、どのように感染予防対策を行っていくかが課題となっています。 【今後の取組】感染対策に配慮した内容のガイドヘルパー育成講座を行い、活動者の育成に努めます。 【決算】 54,036 円

録音サービス事業	【概要】地域のボランティアである「朗読奉仕あいの会」や「個人ボランティア」、「本吉響高校生徒」の協力を得て、「広報けせんぬま」・「社協だより」等を朗読録音し、市内の視覚障害者の方へ送付しました。 【実績】 発行回数 気仙沼 10回 利用者数 15人 本吉 12回 利用人数 1人 【成果】コロナ禍の影響によりボランティア活動が自粛となった期間もありましたが、視覚障害者の方へ情報提供を行うことができました。 【課題】利用者が聞きやすいテープの作成を心掛けることが大切です。 【今後の取組】継続して情報の提供を行います。 【決算】10,000 円
点訳サービス事業	【概要】依頼を受けた資料の点訳を行いました。 【実績】点訳依頼件数1件（前年度0件） 【成果】点訳資料の作成により、視覚に障がいのある方へ円滑な情報の提供を図ることができました。 【課題】現在、市内に点訳ボランティアが1人しかおらず、安定したサービス提供が難しい状況にあります。 【今後の取組】今後とも継続して情報提供を行うとともに点訳ボランティアの育成について検討します。 【決算】5,468 円
障害者との交流事業	【概要】当事者と様々な方々との交流を図ることで、社会参加への促進を図ると共に、地域住民や市民ボランティア等との相互理解の促進と親睦を深めることを目的とし、みみサポサロンとのコラボ企画で実施しました。 【実績】参加者 聴覚障害者8名、健聴者11名、協力者1名 【成果】コロナ禍によりマスク着用となったことで、口元や表情が見えなくなり、買い物等で人と接する際に不安があった当事者が、お店の方や聞こえる参加者との交流や情報交換をしたことで、相互理解の促進に繋がりました。 【課題】あらゆる障害を持つ方々が参加できるような事業を実施することが難しい状況にあります。 【今後の取組】継続して事業を行いながら、障害がある人もない人も気軽に参加できる事業を検討します。 【決算】19,735 円